

上村陶磁器(株)(卸、製造業(陶磁器)・多治見市)

働きやすい勤務時間の設定と多能工化により生産性が向上し、業績もアップ

- ・ 業務の切り分け、他の従業員をカバーできる体制により変則勤務を実現
- ・ 従業員の自主性に任せることにより、作業能率が大幅に向上

国内食器生産の50%以上を占める美濃焼。東濃西部に集積する陶磁器産業は各社による分業で製品を仕上げる産業ですが、同市にある上村陶磁器は「上絵付け」を主に行うほか、「下地」と呼ばれる無地の陶磁器の仕入れ、仕上げ、検品や箱詰め作業等を行っています。しかし、陶磁器産業は零細企業も多く、慢性的な人手不足に悩んでいます。

受注増への対応が迫られる中、採用希望者の希望する条件で採用

令和6年春、受注が増え、従業員の募集を出すも応募がなく困っていたところ、同業他社からの紹介でようやく3名の女性が面接に来ていただけました。面接で話を聞くと、3名とも子育て中の女性であり、不登校の子どもを抱えている方もいて、通常のフルタイムの勤務が難しく、他社での採用も断られていた方ばかりでした。



上村陶磁器(株)の作業場

うえむらのりこ

この時採用を担当したのが、上村紀子専務。この3名の話聞きながら、上村専務はかつて子育てをしながら、仕事と家庭の両立に苦労した自身の経験を思い出しました。人材確保が思うように進まない中、せっかく面接を受けに来てくれた3名に、自分と同じ苦労をさせたくないとの思いから、面接時に聞いた希望する条件でそれぞれ採用することを決めました。また、フルタイムで働いていたベテラン従業員から親の介護が大変だと聞いたので、これを機会に12時～17時の5時間勤務に切り替えることを認めました。

作業スケジュールに裁量を持たせることで業務効率が改善

変則的な勤務時間の従業員が増え、最初は会社全体の作業がうまく回るか不安でした。実際、急に休まれた時は戸惑うこともありました。また、陶磁器業界は薄利多売の業界で大量に製造するため、できる限りミスは減らさなければなりません。このため、最初の一つ一つの商品に対する作業の仕方も事細かに指示していましたが、時間ばかりかかり上手くいきませんでした。

そこで、思い切って方針を転換し、例えば何日までに何個仕上げてといった大まかな目標だけを設定し、後は作業のスケジュールも含めて、各個人に任せることにしました。

すると、子どもの病気などで急に休む日があっても、次の日に出勤した際には、休んだ分を取り戻そうと普段を上回る集中力とスピードで業務実施するようになりました。また、夏休みや冬休みなど、子どもの長期休みに出勤できない従業員には、業務を切り分けて、家庭でもできるシール貼り等の作業を在宅勤務で担ってもらうことにしました。子育てで出勤できない従業員が



「上絵付け」を行う従業員

いることが当たり前になると、各自が身に着けたスキルを他の従業員とお互い共有しあうようになり、休んだ従業員の作業もカバーしあえる環境（多能工化）が自然と出来上がっていきました。「限られた時間の中での勤務だからこそ集中し、休みで遅れた分は必ず挽回してくれます。ポイントは、1日1日で仕事の成果を求めないこと。長いスパンで見てあげることです」と上村専務は言います。



リフォームしたショールーム

作業スピードは5倍にアップ

結果、従来10日で2000個ほどの作業スピードであったものが、10,000個出来るようになり、作業スピードは5倍にアップ。連動して業績も上がり、作業場やショールームのリフォームまで行えるようになりました。

82歳の高齢者も活躍

現在、パート従業員9名のうち4名は子育て中の女性、2名は65歳以上の高齢者です。他業種を退職後、65歳から同社で働き、現在82歳になる方も活躍しています。その方は週3日、午前中に2時間だけ勤務しています。

「デイサービスを受ける感覚で高齢者の方に働きに来てもらえる、将来的にはそんな会社になりたい」と語る上村専務。「子育てや介護は誰もがその当事者になる可能性があり、そんな中でも『収入を得たい』『家族・子育ての時間を大切にしたい』という思いを実現してほしいといつも思っています。」

【従業員の声】

不登校の子がいるため、子どもを置いて働きに出る不安感がありましたが、短時間で働ける、会社に柔軟に対応してもらえる安心感から、継続して勤務することができています。上村陶磁器で働く中で、自分自身も明るくなりました。

【上村陶磁器（株）】 (<https://barastyle.jimdofree.com/uemura/>)

所在地：多治見市上山町2-13-8

従業員：13名（うち正社員4名、パート9名）

設立：昭和51年

（令和7年5月末時点）